

北海道大学とRapidus株式会社が包括連携協定を締結

今枝宗一郎文部科学副大臣が本学を視察

實金総長が釜慶大学校創立100周年記念式典アジア大学フォーラムに出席

お知らせ

・令和5年度北海道大学外国人留学生後援会の決算





国立陽明交通大学との連携体制を強化



第18回（令和6年度第1回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催

全学ニュース

- 1 北海道大学とRapidus株式会社が包括連携協定を締結
- 2 国立陽明交通大学との連携体制を強化
- 3 今枝宗一郎文部科学副大臣が本学を視察
- 4 名誉教授称号授与式の举行
- 5 令和6年度北海道大学EXEX博士人材フェローシップガイダンスを開催
- 6 第18回（令和6年度第1回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催
- 7 令和6年度北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を举行
- 8 「空沼小屋」の登録有形文化財プレート授与
- 9 令和6年度出入国在留管理制度説明会を実施
- 10 キャリアセンター主催「業界研究ガイダンス～コンサルティング編～」を開催～アクセントから知るコンサルの仕事
- 11 東京大学・九州大学・北海道大学の3大学の学生合同グループワーク講座を開催
- 12 寶金総長が釜慶大学創立100周年記念式典アジア大学フォーラムに出席
- 13 北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- 15 第1回高等教育研究セミナーを実施
- 16 STARTUP HOKKAIDO連携講義「社会課題を読み解き未来を生き抜くフューチャースキルを育てよう」を実施
- 17 「DEMOLA HOKKAIDO 1st Batch 最終発表」を開催
- 18 施設公開イベント「持続可能な未来への挑戦」を開催
- 19 ジャスティン・ヘイハースト駐日オーストラリア大使によるトークイベントを開催
- 20 大学院留学生向け日本就職に関する情報提供セミナー「Essential Knowledge and Tips for Job Hunting in Japan」を開催
- 21 サイエンスレクチャー2024「AI入門 ディープラーニングに挑戦！」を開催

部局ニュース

- 22 経済学部成績優秀者表彰式を举行
- 23 先端生命科学研究院・ソフトマター国際連携ユニット（SMCR）龔 劍萍らが英国王立化学会のホライズン賞を受賞
- 24 「国公立大学薬学部長（科長・学長）会議と国立大学附属病院薬剤部長会議との代表者懇談会」及び「令和6年度第1回国公立大学薬学部長（科長・学長）会議」を開催
- 25 産業創出講座「ハイケム北大R&Dラボ」を開設
- 26 環境科学院で北大祭・研究施設公開「環境科学を体験しよう！」を開催
- 27 北管理部（名寄市）でキャンパス・クリーン・デー開催
- 28 北図書館で「出張学習サポート」を開催

お知らせ

- 29 令和5年度北海道大学外国人留学生後援会の決算

博士学位記授与 30

表敬訪問 34

人事 35

- 36 新任教授紹介

資料

- 37 令和5年度卒業・修了者の就職等状況一覧



「空沼小屋」の登録有形文化財プレート授与



STARTUP HOKKAIDO連携講義「社会課題を読み解き未来を生き抜くフューチャースキルを育てよう」を実施



ジャスティン・ヘイハースト駐日オーストラリア大使によるトークイベントを開催



サイエンスレクチャー2024「AI入門 ディープラーニングに挑戦！」を開催

表紙：北海道大学とRapidus株式会社が包括連携協定を締結（関連記事1頁に記載）

裏表紙：キャンパス風景② 大野池（北12条西8丁目）

■全学ニュース

北海道大学とRapidus株式会社が包括連携協定を締結

本学とRapidus株式会社は、半導体産業を通じた我が国の科学技術力の向上及び人材の育成に資することを目的として、6月5日（水）に包括連携協定を締結しました。

北海道における半導体産業の振興に向けた動きが急速に進んでいる中、現在課題とされている人材育成や研究開発の面において、Rapidusが計画している2025年4月からのパイロットライン稼働開始や2027年の量産開始後を見

据え、長期的な高度人材の育成や先端半導体研究等の協力を進めることを目的とし、この度包括連携協定を締結することとなりました。

当面は、本学によるRapidus株式会社の半導体拠点整備への協力や、半導体人材育成・先端半導体研究において連携を図る予定です。具体的な取り組みの例として、2024年中を目処に、Rapidusが2ナノ半導体の評価・分析を行う拠点を本学キャンパス内に設置し

ます。また、Rapidusに関連する先端半導体の研究開発事業の促進や、本学の研究の特色を活かした先端半導体研究を推進していきます。

半導体人材育成に関しては、Rapidusエンジニアの本学への実務家教員派遣による講義や、本学の最新研究成果をRapidusエンジニアが学ぶ機会の提供などを行っていく予定です。

（総務企画部企画課）



締結式の様子。左から賣金清博総長、Rapidusの小池淳義代表取締役社長

国立陽明交通大学との連携体制を強化

6月25日（火）、實金清博総長と国立陽明交通大学（台湾）のチーホン・リン学長との間で、今後、半導体ナノテクノロジー分野を中心に、緊密な研究協力体制を確立していく旨の合意文書が交わされました。

国立陽明交通大学は、高齢者長期療養、腫瘍学、脳科学、医学工学の分野で強固な研究基盤を有する他、先端半導体を中心とする電子、情報通信、経営、工学分野での研究をリードし、半導体産業を中心に台湾で多くの産学連携実績を生み出しています。

本学と国立陽明交通大学は、2013年

に大学間で学術交流協定を締結し、研究交流・学生交流を進めてきました。この間の研究者間の交流状況を踏まえ、この度、リン学長をはじめとする執行部が本学を訪問することとなり、半導体分野における共同研究や人材育成を中心に連携体制を強化していくことに合意しました。

当面は、研究者・学生交流等を継続して進めていくとともに、半導体ナノテクノロジーを中心として緊密な研究協力体制を確立するための共同研究グループを編成し、両大学の半導体分野における共同研究を推進していく予定

です。

さらに、両大学ではナノバイオや医療ヘルスケアに関する研究も盛んであり、AIなどの高度情報処理や先端半導体との融合研究を見据えた連携も検討していくこととしています。そのような連携の一環として、今回、国立陽明交通大学の先生方を迎えて、半導体ナノテクノロジーとバイオ医療科学に関する国際ワークショップも併せて開催しました。

（総務企画部企画課）



連携強化の合意書への署名（左からリン学長、實金総長）



調印式後の集合写真

今枝宗一郎文部科学副大臣が本学を視察

6月27日（木）に文部科学省から、今枝宗一郎文部科学副大臣、上田光幸研究開発局開発企画課長ら4名が、本学の半導体に関する人材育成や研究の活動を視察されました。

最初に、事務局において、寶金清博総長、山口淳二理事・副学長（半導体拠点形成推進本部長）、瀬戸口剛理事・副学長、行松泰弘理事、清水聖幸副学長（半導体拠点形成推進本部副本

部長）らと挨拶を交わされた後、寶金総長から、本学における半導体人材育成の取り組みについて説明を行い、その後、活発な意見交換が行われました。北海道における半導体人材育成の必要性や、本学が検討している取り組みについて意見を交わし、とても有意義な時間になりました。

次に、電子科学研究所に場を移し、居城邦治所長から同研究所の概要につ

いて、松尾保孝教授からARIMによる設備共用の体制や利用実績、その体制がもたらした特徴的な研究成果、半導体技術に関する人材育成の取り組みについて説明があった後、同研究所のクリーンルームを視察されました。

（総務企画部企画課）



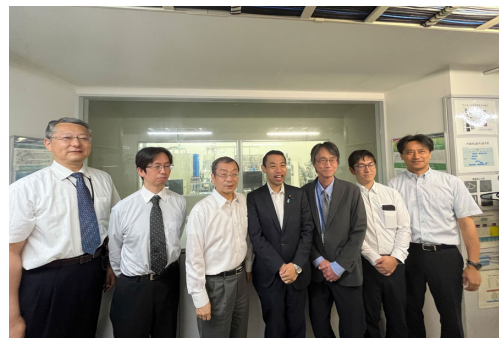
寶金総長との意見交換の様子



電子科学研究所における説明の様子



電子科学研究所におけるクリーンルーム視察の様子



記念撮影の様子（中央：今枝副大臣）

名誉教授称号授与式の挙行

6月4日（火）、先に本学名誉教授に決定された方々（42名）に対する称号授与式を学術交流会館講堂において執り行いました。

当日出席された22名の名誉教授一人ひとりに、寶金清博総長が称号を授与した後、永年にわたるご尽力に感謝の言葉が述べられました。

また、引き続きインフォメーションセンター「エルムの森」内「カフェde

ごはん」において、この度称号を授与された名誉教授と道内在住の名誉教授、役員、副学長、部局長との懇談の場として企画された名誉教授懇談会が、理学研究院を幹事として行われました。

懇談会には、名誉教授、役員、副学長、部局長を合わせて67名が出席され、網塚 浩理学研究院長の開式の辞に始まり、寶金総長の挨拶・乾杯、本

学150周年記念事業紹介、朝倉清高名誉教授及び喜田 宏名誉教授のスピーチがあった後、山口淳二理事・副学長の乾杯、「都ぞ弥生」斉唱へと続き、網塚理学研究院長の閉式の辞で盛会のうちに懇談会を終えました。

（総務企画部人事課厚生労務室、理学研究院）



名誉教授称号授与式（挨拶をする寶金総長）



名誉教授称号授与式（記念撮影）



名誉教授懇談会（スピーチをする喜田 宏名誉教授）



名誉教授懇談会（懇談会の様子）

令和6年度北海道大学EXEX博士人材フェローシップガイダンスを開催

6月13日（木）、令和6年度北海道大学EXEX博士人材フェローシップガイダンスを開催しました。

北海道大学EXEX（エグゼックス）博士人材フェローシップ制度は、本学が国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に「ExcellenceとExtensionの融合による未来社会の開拓者育成プログラム」として採択されたことを受け、令和6年4月に創設しました。本フェローシップは選抜された優秀な博士課程学生に対し、研究に専念できる環境を提供し、研究力の向上を図る支援を行うものです。

今回のガイダンスでは、令和6年4月採用の早期募集で採用した60名を対象に、対面とオンラインのハイブリッドで開催しました。当日は学内広報も兼ねて、本フェローシップに興味のある

学部生を含めた全ての課程の学生の参加を可能とし、会場は110名、オンラインは200名以上の学生が参加しました。冒頭では山本文彦理事・副学長から採用学生に向けて激励のメッセージが送られ、石森浩一郎副学長・事業統括・理学研究院教授や関係WGの座長から、予定されているプログラムの説明、支給される研究費や研究奨励費の使用法、今回のフェローシップ事業より課された必修の取組や選択必修の取組など、博士課程の学生が研究者として主体的に研究を進めるための手続について解説がありました。

後半では基調講演として、前身であるDX博士人材フェローシップの支援を経て、現在は起業し活躍するフェローシップ1期生のLetara株式会社CO-CEOの平井翔大氏とケンプス・ランドン氏のほか、HILO株式会社代表取締役の天

野麻穂氏、産学・地域協働推進機構の土屋 努副理事から、博士課程での研究やその後のキャリアについて講演いただき、参加学生は大いに鼓舞された様子で博士課程学生の可能性や将来のキャリアについて聞き入っていました。

当日のオンライン配信・オンデマンド配信（基調講演を除く）を用意することで、会場に足を運べない参加者にも対応しています。令和6年度の募集や今後のイベント情報については、随時、以下のポータルサイト等でお知らせしています。

ポータルサイト

<https://sites.google.com/eis.hokudai.ac.jp/exexphd-fellow/home>

（学務部学務企画課大学院教育改革推進室）

日 時：6月13日（木）18：00～20：00

会 場：学術交流会館小講堂（オンライン配信及びオンデマンド配信も実施）

出席者：山本文彦理事・副学長、石森浩一郎副学長・事業統括、藤田 修教務WG座長、吉原拓也キャリアWG座長



会場の様子



学生に激励のメッセージを送る山本理事・副学長



プログラムの説明を行う石森副学長・事業統括・理学研究院教授



後輩へ激励の言葉を送るOBの平井氏

第18回（令和6年度第1回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催

新渡戸カレッジの大学院カリキュラムでは、6月16日（日）に高等教育推進機構において、第18回メンターフォーラムを開催しました。

社会の多様な分野で活躍する方々がメンターに就任し、新渡戸カレッジ生のキャリア意識の醸成、社会的視野の広がり、及び人的ネットワークの形成にご協力いただいています。

メンターフォーラムは、新渡戸カレッジ生が大学院修了後のキャリアを念頭に、カレッジ生自身にとって身近なロールモデルであるメンターとの交流

を通じ、自身のキャリアパスをより具体的に考える機会として、夏と冬の年2回開催されています。

当日は、第1部として「Career Building and Entrepreneurship Opportunities for Degree Holders」のテーマで、5名のメンターによるパネルディスカッションがありました。新渡戸カレッジ生は、多様な分野でグローバルに活躍する先輩たちの話に刺激を受け、熱心に耳を傾けていました。

続く第2部では、新渡戸カレッジ生が各メンターに自由に質問し対話を行

う交流会として実施しました。新渡戸カレッジ生は大学における研究活動及び今後本格化する就職活動等について積極的に質問し、アドバイスを頂くことができました。

本メンターフォーラムを通して、新渡戸カレッジ生は、大学院生活をどのような姿勢で学修・研究に取り組み、将来のキャリアデザインに繋げていくか等について、貴重な知見を得ることができたようです。

（学務部教育推進課）



パネルディスカッションの様子



集合写真

令和6年度北海道大学私費外国人留学生特待プログラム 留学生採用証書授与式を挙

5月28日（火）、高等教育推進機構において、北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙

行しました。
北海道大学私費外国人留学生特待プログラムは、学業成績が優秀かつ国際的な貢献に寄与する人材を育成することを目的とし、平成20年度に開始され

た制度です。大学院に入学する私費外国人留学生を対象としており、研究分野、研究課題等を明確にしたプログラムに基づき受け入れを行っています。

授与式には採用者6名のうち5名が出席しました。列席者が見守る中、高橋 彩理事・副学長から採用者一人ひとりに採用証書が授与されました。続

いて、本学での様々な経験を通して世界で活躍する人物へ成長してほしいと激励の言葉が述べられ、学生達は真剣なまなざしで聞き入っていました。

（学務部学生支援課）



全員での記念撮影



高橋理事・副学長から証書授与

「空沼小屋」の登録有形文化財プレート授与

6月6日（木）、寶金清博総長から、本学山岳部のOB会である「北大山の会」の安間 莊氏（昭和34年3月理学部地質鉱物学科卒）に対し、空沼小屋の登録有形文化財の登録プレートが手渡されました。

空沼小屋は、秩父宮雍仁親王の発意により、スイス人建築家のマックス・ヒンデル氏が設計し、昭和3年、空沼岳の万計沼畔に建てられました。

築後90年以上が経過し、老朽化により利用できなくなっていた空沼小屋で

したが、安間氏を中心に「空沼小屋の保存を考える会」が発足し、同会を中心とした活動のおかげをもって、令和4年6月に登録有形文化財として登録されました。

寶金総長からのプレート手交後、参加者による懇談が行われ、山岳部と山の会が昭和57年に成し遂げたダウラギリI峰（ネパール）厳冬期初登頂や、空沼小屋と同様にヒンデル氏が設計したヘルベチア・ヒュッテについての会話に花が咲いていました。

安間氏から、山岳部が令和8年に創部100周年を迎えるにあたり記念事業を検討しているとお話があり、寶金総長から、同年は北海道大学も創立150年の節目にあたる年であり、100年を迎える課外活動団体は稀少であるため、可能な範囲で大学も山岳部の記念事業に協力したい旨のお話がありました。

（学務部学生支援課）



寶金総長から安間氏が登録プレートを受け取る様子
（左から、寶金総長、安間氏、井上孝俊氏、小泉章夫氏）



全員による記念撮影

令和6年度出入国在留管理制度説明会を実施

6月20日（木）、学術交流会館にて出入国在留管理制度説明会を開催しました。

本説明会は「北海道留学生交流推進協議会」の事業の一環として、本協議会関係者向けに最新の正しい出入国在留管理制度の情報を提供し、制度への理解を深めることを目的として、毎年開催しているものです。出入国在留管理局等から講師を招いて行っており、今回の参加者は道内各地の25団体から計88名となりました。

説明会では、法務省札幌出入国在留

管理局審査部門の濱田和哉審査官より「出入国在留管理制度について」の講義があり、最新の入国者の動向や制度について説明がありました。次に北海道農政部生産振興局畜産振興課の中田剛司主幹から「家畜の海外悪性伝染病と農場の自衛の取組について」、続いて農林水産省動物検疫所北海道・東北支所検疫課の横澤輝美係長から「肉製品の違法持ち込み防止に向けて」の講義があり、家畜伝染病の傾向と対策及び肉製品の持ち込み厳格化に関する内容が紹介されました。質疑応答では、事

前に受け付けた質問に対する回答を含め、最新の留学生や研究者の入国に関する措置等について丁寧な説明がなされ、大変有意義な説明会となりました。

本説明会は、「申請等取次申出書」の添付書類となる経歴書に記入できる「出入国在留管理行政に関する研修会等」に該当するため、申請等取次者証明書の交付を希望する受講者には研修会受講証明書を提供しております。

（学務部学生支援課）



札幌出入国在留管理局 濱田審査官による説明



北海道農政部生産振興局 中田主幹による説明



農林水産省動物検疫所 横澤係長による説明

キャリアセンター主催「業界研究ガイダンス～コンサルティング編～」を開催～アクセンチュアから知るコンサルの仕事

5月21日（火）、クラーク会館にて、キャリアセンター主催「業界研究ガイダンス～コンサルティング編～」を開催しました。

第1部では株式会社マイナビの吉田優太氏から業界を理解するコツやポイントの解説、続く第2部ではアクセンチュア株式会社の浅井憲一氏から、コンサルタントとしての仕事について解説をいただきました。

第3部のパネルディスカッションでは、浅井氏ともう1名、アクセンチュア株式会社の葛西諒子氏が登壇し、自身の転職経験なども交えてコンサルタ

ントとして働くことと、ワークライフバランスの取り方など、様々な質問に回答いただきました。

第4部は浅井氏と葛西氏それぞれと学生がじっくり話すことができる座談会を実施し、学生からはコンサルタントの仕事や業界の特徴、活躍人材やワークライフの実施について次々と質問があり、ガイダンス終了後も多くの学生が質問を続けていました。

終了後には、学生から「コンサルタントについて漠然としたイメージしかなかったが、具体的にどのようなことをしているのか実情を知ることができ

た。また、職務を行う上でのマインドなど生の声を聞いたのがとても良かった」「現場で実際に働いている方のお話は、ネットや世間で言われていることとは段違いに説得力、リアル感があって、単純に楽しかった」などの感想がありました。

キャリアセンターでは年間を通じて様々なガイダンスを実施していますので、ぜひ学生の皆様にご案内ください。

（キャリアセンター）

タイトル：インターンシッププレ研修 業界研究ガイダンス～コンサルティング編～

日 時：2024年5月21日（火）18：15～20：15

会 場：クラーク会館

登 壇 社：アクセンチュア株式会社 浅井憲一氏、葛西諒子氏

企画・主催・当日運営：キャリアセンター

運営協力：株式会社マイナビ



満員の会場で、多くの学生が真剣に耳を傾ける様子



講演する浅井氏



質問が相次いだ、近い距離で交流ができる座談会



座談会で学生の質問に答える葛西氏

東京大学・九州大学・北海道大学の3大学の 学生合同グループワーク講座を開催

5月27日（月）に東京大学、九州大学と本学の合同で、インターンシップに向けたグループワーク講座をオンラインで開催しました。

当日は3大学から計46名の学生が参加しました。大学別では本学の学生が最も多く、参加学生の約半数にあたる23名が参加しました。学生は6グループに分かれて共通のテーマでグループワークを行い、最後には全体に向けてグループでプレゼンテーションを行いました。他大学の学生とのグループワークやグループディスカッションを行うのは初めてという学生が多く、初対

面のメンバーと短い時間でそれぞれの価値観を示しつつ、結論に向かってディスカッションを行い、全グループが時間内にしっかりとまとめあげていました。

当日は6社の企業・団体にご協力をいただき、学生のディスカッションを企業目線でサポートいただきました。全グループのプレゼンテーション後には、ディスカッションのプロセスや内容などについて、グループ及び個人へ丁寧なフィードバックがありました。就職活動を意識して参加した学生が多くいる中、ビジネス目線での議論の広げ

方やキャリアパスについてなど、広い視野での多くのアドバイスがあり、さらに講座終了後も個別に学生からの質疑応答に対応いただきました。

参加した学生にとって、他大学の学生や企業の方の考えにふれることができる貴重な場となりました。

全国の企業、遠方の大学とつながることができるオンライン開催ならではの場として、今後も時期や内容を変更して実施していく予定です。

（キャリアセンター）

日時：2024年5月27日（月）17：00～19：00

会場：オンライン

主催及び協力：株式会社ジェイ・ブロード、北海道大学キャリアセンター、東京大学キャリアサポート室、九州大学学務部奨学支援課

協力企業：株式会社オービック、株式会社テレビ朝日、日本ガイシ株式会社、福岡ソフトバンクホークス株式会社、防衛省、株式会社ミクロスソフトウェア

グループワークテーマ：多様な人材が活躍できる企業の条件とは



ガイダンス当日の協力企業・団体と各大学キャリアセンター

寶金総長が釜慶大学校創立100周年記念式典アジア大学フォーラムに出席

5月22日（水）に、韓国・釜山にて、釜慶大学校創立100周年記念式典アジア大学フォーラムが開催され、寶金清博総長が出席しました。

本フォーラムは、本学の大学間交流協定校である釜慶大学校が創立100周年記念のイベントとして、進化する高等教育の展望とアジア全域のダイナミックな社会的要望に対応するための高等教育機関の重要な役割と方向性について、アジアの著名な大学の代表同士が対話を行い、国際的な連携を強化していく機会として開催したもので、本学を含め5か国6大学の学長が出席しました。

「アカデミックの枠組みを超えて：根本的な社会変革に対応するアジアの大学」をテーマに開催されたフォーラムでは、釜慶大学校の張 瑛秀総長の挨拶に続き、寶金総長が「新たな時代における大学の役割：Novel Japan University Model～Excellence and Extension～」をテーマに講演を行いました。参加大学の学長が社会変革に対応するための各大学の取り組みについて講演を行った後、聴衆を交えながら各大学代表間で意見交換を行うセッションがあり、アジアの大学の競争力を高め、将来世界を牽引する次世代のリーダーの人材育成を行うためにはど

うしたらよいか、活発な議論が行われました。

多くの大学で社会的変容や国際化等といった高等教育における共通の課題を抱えており、特に日本と韓国においては、少子化という共通の社会的課題がある中で、今後の大学の在り方を検討し、次世代の人材を育成するための方策について議論する良い機会となりました。今後も各大学との連携や情報交換を継続し、教育研究両面における関係強化を模索していきます。

（国際部国際連携課）



講演を行う寶金総長



アジア大学フォーラム講演者の集合写真



フォーラムに於けるディスカッション

北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）

北海道大学は、創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に北大フロンティア基金を創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、息の長い募金活動をするとしています。

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金創設時累計	(5月31日現在)	47,926件	7,168,391,874円
うち、北海道大学創基150周年記念募金累計	(5月31日現在)	10,878件	1,003,623,317円

ご寄附状況

5月は356件46,954,181円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名を掲載させていただきます。
(五十音別・敬称略)

寄附者ご芳名（法人等）

アジア航測株式会社、アンビシャスグループ北海道株式会社、医療法人社団おかもとこども矯正歯科クリニック、株式会社開発調査研究所、株式会社カナモト、社会医療法人恵佑会、医療法人宏友会、桜クリニック、医療法人 札幌山の上病院、北海道大学漕艇部 茨水会、ジニー企画合同会社、社会医療法人耳鼻咽喉科麻生、市立旭川病院、株式会社シルバーボックス・プリンシパル、医療法人社団 正信会、積水化学工業株式会社、医療法人社団泰生会堀口クリニック、総合病院伊達赤十字病院、株式会社だるま、医療法人社団 中鉢小児クリニック、医療法人社団 つつみ整形外科クリニック、中道リース株式会社、名護市屋我地診療所、株式会社難波薬局、合同会社パーシモン、社会福祉法人北海道社会事業協会 帯広病院、三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社、宮脇グループホールディングス株式会社、六美会第46期一同、株式会社ライジングサン商会

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	青井 良平	青木 俊介	青木 秀俊	赤平 幸郎	阿部 雅史	有賀 正	飯田 和典
池田 輝明	石井 哲夫	石垣 隆弘	居城 邦治	石渡 英夫	板谷 良久	市坂 有基	伊藤 大貴
伊藤 雄三	井上 猛	井上 将希	猪股 路子	井原 博	今井 晋	今井 知博	入澤 秀次
上田 諭	上田 雅敏	上村 稔	内堀 勝章	梅本 由佳	縁記 和也	遠藤 公憲	及川 巖
大北 健雄	大西 信樹	大野義一郎	大原 正範	大森 浩二	大柳 恵子	緒方 昭彦	小上登志夫
沖崎 遼	沖野 教郎	尾立 卓弥	小田原一史	小野江和則	小野澤敏弘	小原 大和	加藤 元
加藤 伸康	加藤 裕貴	加藤 元嗣	金川 眞行	金子豊三郎	金子 治子	川内 瑞歩	河田 恭裕
川端 啓介	河本 充司	丸藤 哲	菊地原多佳子	北城 秀司	衣川 暢子	木村 祐介	桐山 宏紀
久郷 真司	久住 一郎	久保 周吾	栗原 誠治	上月 浩	小杉 雅郎	後藤 聖治	小濱 好彦
小林 賢人	小林 正樹	今 京子	齊藤 慈円	齊藤 晋	齊藤 徹	齋藤 久	坂本 大介
崎元 大志	櫻木 範明	佐々木 理	佐々木重幸	佐々木 悠	佐々木秀直	佐藤 典宏	澤田 大作
澤 洋文	三升畑元基	志済 聡子	篠原 信雄	篠原 正裕	柴田 恵子	渋谷真希子	新宮 康栄
信野祐一郎	陣谷 義直	菅原 新也	杉江 和男	杉本 聡	鈴木 貴之	鈴木 鉄哉	鈴木 正司
鈴木 康弘	須藤 和昌	角 一幸	住野 幸仁	瀬名波栄潤	妹尾 恭一	高瀬登志彦	高柳 涼
田栗 和奈	武井 大樹	竹原 巖	立野 正敏	田中 栄治	谷口 直之	多米 豊	土家 琢磨

寺澤 睦	傳田 健三	傳田澄美子	東郷ひろみ	藤内 守	戸谷 剛	富田 裕	豊田 威信
鳥潟 肇	中川 照久	中里 堯	中島 保明	永田 晴紀	中津川孝道	中村 克宏	中村 俊孝
永森 聡	中谷 晴昭	南須原康行	成澤 佳子	新田 佳祐	新田 幸絵	庭野 陽樹	沼 光明
根本 叔治	野村 憲和	萩原 清妃	花田 秀一	馬場 直俊	早川 欽哉	原 啓介	原 雅道
引田 淳	弘田 博子	弘田 裕	福永 悟郎	藤澤 裕子	藤本 望	星 光流	本田 精一
牧内 勝哉	松井 耕二	松岡 伸一	松家 治道	松原 謙一	松村 譲児	松本 昭久	真部 淳
馬淵 正二	三木 證永	水戸部 学	南田 大朗	宮崎 周平	宮田 信幸	村上 広輝	村瀬徳啓充
村瀬 亮太	森 純一	矢口 裕之	矢口 和幸	安原 光枝	矢田 正明	矢野 啓介	山口 晃司
山口 淳二	横山 考	吉岡 正俊	吉田 広志	若狭 哲	脇坂 明美	渡邊 正夫	渡部悠里子
渡部 克将							

<寄附者への特典>

創基150周年を記念した銘板

創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます。個人・法人共に、ご寄附の累計が1億円以上でプレミアムゴールド、1千万円以上でゴールド、500万円以上でシルバー、100万円以上でブロンズとなります。

既存のホワイト銘板は累計20万円以上が対象です（令和2年度以前は総合博物館、令和3年度以降は百年記念会館に掲出）。なお、銘板については、年度内に賜ったご寄附の累計を取りまとめ後、翌年8～9月頃を目途に掲出いたします。

※このほか、ご寄附の金額に応じ、オリジナルグッズや感謝状の贈呈、御礼の場など様々な特典をご用意させていただきます（詳細はこちらでご確認ください <https://www.hokudai.ac.jp/fund/gratitude/>）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員からの寄附」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff>

①給与口座からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（給与口座からの引落）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当（事務局・学内電話 2017）

（社会共創部広報課）

第1回高等教育研究セミナーを実施

高等教育推進機構高等教育研究部では、今年度から高等教育に関する研究及び実践の共有を目的として「高等教育研究セミナー」を実施します。第1回高等教育研究セミナーは、「大学入試の共通試験改革をめぐるポリティクス」と題して、6月1日（土）、2日（日）に情報教育館にて開催されました。このセミナーには、2日間で大学院生、大学教員、高校教員、教育関係者等、約20名が参加しました。

6月1日（土）には、弘前大学教育学部の中村恵佑助教の著書『大学入試の共通試験改革をめぐるポリティクス—

「拒否権プレイヤー論」による政策過程分析—』（東京大学出版会、2023年）を素材とした読書会を行い、参加者と疑問点や不明点を自由に出し合い、最終的に複数の論点を提起しました。6月2日（日）の午前中は、中村助教による講演から始まり、続いて本学高等教育推進機構の飯田直弘准教授による本学フロンティア入試Type Iについての話題提供が行われました。そして、午後には中村助教も交えて1日目に提起された論点をめぐって熱い議論が展開されました。

2日間のセミナーを通じて、大学入

学共通試験の政策形成・決定過程をいかに分析すればよいのか、またその際に「拒否権プレイヤー論」がどれほど有効な枠組みとなるのかについて議論が繰り広げられました。こうした議論を前提としながら、理想的な大学入学選抜のあり方に関する参加者の問題意識の共有まで話が及ぶことで、今後の大学入学選抜に関する研究の見取り図が描き出されました。

（高等教育推進機構）



弘前大学中村助教による講演の様子



セミナーでの議論の様子

STARTUP HOKKAIDO連携講義「社会課題を読み解き未来を生き抜くフューチャースキルを育てよう」を実施

産学・地域協働推進機構は、4月から6月にかけて、STARTUP HOKKAIDOと小樽商科大学と協働して、連携講義「社会課題を読み解き未来を生き抜くフューチャースキルを育てよう」を実施しました。

本連携講義は、受講生が変動の激しい時代である今を生き抜き、未来の社会をより良くするために必要なフューチャースキルを考え、身につけることを目的としています。様々な領域で活躍している方々を講師に迎え、講義を通じて顕在化する社会課題について理解を深め、それらを解決するビジネスアイデアをチームで考えることを通じて、課題解決能力を涵養します。この

度の開講においては、本学や小樽商科大学の学生だけではなく、公立はこだて未来大学、北星学園大学、山形大学、島根大学など他大学の学生に加え、高校生らも多く参加しました。

6月20日（木）の最終日は、全10チームが秋元克広札幌市長、Plug and Play Japan株式会社の藤本あゆみエグゼクティブディレクター、小樽商科大学の穴沢 眞学長、本学の實金清博総長ら審査員に対して、各チーム5分間でビジネスアイデアの最終発表を行いました。発表内容は、「ミールワームを活用した養殖業の餌問題」「デジタルデトックスと旅をかけた合わせたプログラム」「パパ友を創るマッチングサー

ビス」などの提案があり、最優秀賞を受賞したのは、「なりたい自分や目標達成までのプロセスを他者から学び、相談し合うプラットフォーム」を提案した、チームmichiでした。最も優秀なアイデアを発表したチームmichiには、最優秀賞とともに、11月にイタリアで開催されるスタートアップエコシステムツアーへの参加権利が授与されました。

今後も産学・地域協働推進機構ではアントレプレナーシップの醸成を目的とし、このような活動を展開します。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

日程：4月18日（木）～6月20日（木）（全9回）

対象：大学生・大学院生・高校生・中学生・一般の方

会場：オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」及びフード&メディカルイノベーション国際拠点（FMI）

共催機関：小樽商科大学、STARTUP HOKKAIDO



アイデアを考案する様子



発表の様子



審査の様子



最優秀チームの表彰

「DEMOLA HOKKAIDO 1st Batch 最終発表」を開催

5月25日（土）、産学・地域協働推進機構は、DEMOLA HOKKAIDO 1st Batchの最終発表の場であるファイナルデモンストレーションを開催しました。

DEMOLAはフィンランド発の産官学連携イノベーション創出プラットフォームであり、世界16ヵ国、60大学以上が参加している国際的な企業課題解決ネットワークです。学生と企業担当者が一緒にチームを組み、企業のリアルな課題（ケース課題）解決に取り組む

のが特徴です。2018年から、日本では初めて本学が導入し、これまで40社48課題に取り組む活動を展開してまいりました。参加学生は、本学をはじめとした道内の学生が中心でしたが、2020年度以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響もありフルオンラインでの開催体制を整えたことから、本州の学生や海外在住の学生の参加も実現しています。

今回の1st Batchは、サンネット株式

会社と、社会福祉法人東康会の2団体にご参加いただき、それぞれインクルーシブ・ビジネスや福祉の本質に焦点を当てたケース課題が出題されました。学生たちは、チーム内で2か月間議論を重ね、ファイナルデモンストレーションでは、参加団体の意思決定者と、盛んな質疑応答が行われました。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

日 時： 5月25日（土）13：00～17：00

（DEMOLA HOKKAIDO 1st Batchの期間：4月6日（土）～5月25日（土））

会 場：フード&メディカルイノベーション国際拠点（FMI）



ファイナルデモンストレーションの集合写真

施設公開イベント「持続可能な未来への挑戦」を開催

6月8日（土）に産学・地域協働推進機構は、サステナビリティ推進機構、大学院教育推進機構と協働して、施設公開イベント「持続可能な未来への挑戦」を開催しました。

本イベントでは、これまでに当機構のアントレプレナーシップ教育を受けた学生の企画や、北大発認定スタートアップ企業等に運営協力いただき、様々なプログラムを実施しました。

中学生～大学生らの企画では、ビジネス理解・創造性・主体性を身に付けることを目的としたボードゲーム「チャレンジピッツァ」、グローバルな視点や多文化共生の理解を促す「国際

雑談～Be the Global Chatter～」自身で学校での学びに疑問を持ったことをきっかけに生まれた「自分の“好き”を生かす仕事を作ってみよう」などのプログラムを実施し、北大発認定スタートアップ企業からは、炭素についてゲームを通して学ぶ「カーボンクエスト」や、常設展示の「クイズで知ろう、北大のフィールドと生物多様性」及び「研究成果でSDGsに貢献する発表会 博士学生が描くミライ」などの企画が行われました。

会場であるフード&メディカルイノベーション国際拠点への来場者は、研究所・センター等合同一般公開が実施

したシールラリーの参加者も含め、500人を超え、イベントは大盛況でした。参加者からは、「様々な分野からSDGsについて考えることができて、勉強になった」「毎年、面白い企画をやってくれている。来年も来たい」という意見が寄せられました。

産学・地域協働推進機構は、今後もこのようなイベントを通してアントレプレナーシップ教育の認知拡大を進めていきます。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

日 時：6月8日（土）10：00～17：00

対 象：小学生・中学生・高校生・一般の方

会 場：フード&メディカルイノベーション国際拠点（FMI）

共催機関：サステナビリティ推進機構・大学院教育推進機構

運営協力：NudgeU・合同会社エゾリンク・学生団体ARN・Beeber Global・Mana*



チャレンジピッツァ開催の様子



国際雑談～Be the Global Chatter開催の様子～



「自分の“好き”を生かす仕事を作ってみよう」開催の様子



カーボンクエスト開催の様子

ジャスティン・ヘイハースト駐日オーストラリア大使による トークイベントを開催

6月3日（月）、ジャスティン・ヘイハースト駐日オーストラリア大使を迎え、駐日オーストラリア大使館、本学国際連携推進本部及びスラブ・ユーラシア研究センターの共催で、「Australia-Japan cooperation in the Indo Pacific – Security, climate/energy, education, science and technology（インド太平洋地域における豪日連携－安全保障、気候／エネルギー、教育、科学技術）」をテーマに講演会を開催しました。2023年1月の着任以来ヘイハースト大使の来道は初めてで、国立アイヌ民族博物館、オーストラリア人観光客が1年を通して多く集まるニセコ町地域、日本最大規模の商業洋上風力発電施設である石狩湾新港洋上風力発電所、Rapidus株式会社の半導体工場を訪問するのに合わ

せ、本学で学生向けに講演をすることを希望されたため実現したものです。

本イベントには、函館キャンパスへのZoom配信での参加学生も含めて、学生、教職員の約50名が参加しました。国際連携推進本部の植村妙菜学術主任専門職から、本学とオーストラリアの大学、特に戦略的国際パートナー校であるメルボルン大学との繋がり、講演者の紹介があった後、スラブ・ユーラシア研究センターの岩下明裕教授より、様々な国の影響下にあるインド太平洋地域での両国の関係性について、特に水産資源といった食の安全などの観点から話がありました。続くヘイハースト大使の講演では、両国の人々の観光往来のみならず、食糧、枯渇するエネルギー資源の買い付け、不動産業

や生命保険業へまで広がる日本の貿易投資といった、ソフトな面の文化的・経済的連携が進んできた状況を踏まえたうえで、ここ数年の世界的な政情不安のインド太平洋地域への影響により、サイバーセキュリティを含めた安全保障、政策上での連携の機会が増えてきていることが述べられました。両国を取り巻く国々の思惑に違いがあっても、価値観を共有し信頼関係を醸成してきた両国で更に深い連携を探り、インド太平洋地域の平和のために尽力することへの期待が示され、1時間のイベントが終了しました。

（国際連携推進本部、
スラブ・ユーラシア研究センター）



ヘイハースト大使による講演



岩下教授によるお話



会場の様子



会場参加者との集合写真

大学院留学生向け日本就職に関する情報提供セミナー 「Essential Knowledge and Tips for Job Hunting in Japan」を開催

大学院教育推進機構先端人材育成センター上級人材育成部門（I-HoP）は、5月28日（火）に、大学院留学生を対象とした英語による日本就職に関する情報提供セミナー「Essential Knowledge and Tips for Job Hunting in Japan」をオンラインで開催しました。

当日は、外国人留学生の就職活動を支援するサイトである「リュウカツ」を展開する株式会社オリジネーターから小澤由紀子氏を講師に迎え、日本で

の就職活動のスケジュールや、就労のための在留資格、企業から求められる日本語力等について説明しました。

8つの大学院から修士課程4名、博士後期課程12名、ポスドク1名の計17名が参加しました。

本学は、第4期中期目標・中期計画に基づいて大学院改革を推進しており、キャリア支援に関しては、「学部から博士課程までの一貫したキャリア教育の強化」を目指しています。現

在、大学院生の在籍数に占める留学生の割合は博士後期課程の約3分の1、修士課程の約4分の1となっており、留学生向けの英語によるキャリア支援は重要な課題となっています。I-HoPでは、大学院留学生の日本でのキャリアパスを広げるため、就職支援やトランスファラブルスキル強化など、英語による多様なプログラムを展開しています。

（大学院教育推進機構）



小澤講師による講演の様子

サイエンスレクチャー2024「AI入門 ディープラーニングに挑戦！」を開催

6月22日（土）高等教育推進機構にて、本学と読売新聞北海道支社との包括連携協定のもとに実施しているサイエンスレクチャー2024「AI入門 ディープラーニングに挑戦！」を開催し、中高生31名が参加しました。

講師の情報科学研究院の山下倫央教授と横山想一郎助教が所属する調和系工学研究室では、人工知能（以下、AI）によるイノベーションでより素晴らしい世界を実現することを目指し、社会と人との調和を前提としたAIの技術、及びその応用を研究しています。本レクチャーでは、AIの機械学習手法の一つである深層学習（ディープラーニング）をテーマに、講義と体験学習を実施しました。

はじめに、主催者を代表して広報・

社会連携本部広報・コミュニケーション部門長の南波直樹教授から挨拶があり、「AIが画像や文章を認識したり作成したりできるようになるためには、AI自身が学習することが鍵となります。きっと皆さんのAIに対する理解が、レクチャー後には変わっているのではないかと期待しています」と話しました。続いて、山下准教授が深層学習の概要について講義し、深層学習が人間の脳の仕組みをモデル化したニューラルネットワークを用いていること、AIを学習させるためには正しくラベル付けされた多くのデータが必要となることなどを解説しました。体験学習では、生徒たちがPCを使って深層学習に用いるデータの収集とラベル付けに取り組みました。体験学習の振り返りで

は、横山助教がラベル付けの精度やデータ収集量がAIの画像識別能力にどのように影響するのかを、実際に生徒たちが作成したデータの分析結果をもとに解説しました。最後に山下准教授は、「近い将来、AIが共通テストの得点を人並み以上にとることができるようになったときに、自分はどのように価値を示して、どのように生きていくのかをしっかりと考えていって欲しい」と生徒たちに語りかけました。

終了後のアンケートでは「AIの学習の仕組みや歴史に関する理解が深まった」「AIと今後どのように関わっていくのか考える機会になった」などの声が寄せられました。

（広報・社会連携本部）



講義をする山下准教授



体験学習の結果について解説する横山助教



PCを使った体験学習に取り組む生徒たち



参加者全員で集合写真

■ 部局ニュース

経済学部成績優秀者表彰式を挙行

6月20日（木）、経済学研究院研究棟にて、経済学部「成績優秀者表彰制度」による表彰式を行いました。

「成績優秀者表彰制度」は、前年度1年間の履修科目において優秀な成績を修めた学生の中から、学生の模範となるような成績優秀者を学部長が選考・表彰するとともに、Dean's List

（成績優秀者名簿）に登載し、末永くその努力と名誉を讃えることを目的としています。本年度は3年次学生10名、4年次学生10名の計20名が選出されました。

表彰式では、久保淳司学部長から対象者へ表彰状と副賞が手渡され、祝福の言葉が述べられました。引き続き行

われた懇親会では、出席者が親睦を深めました。

経済学部では、今後も学生の学習意欲向上を促すための取り組みを行っていく予定です。

（経済学部）



本年度の受賞者

先端生命科学研究院・ソフトマター国際連携ユニット（SMCR） 龔 劍萍らが英国王立化学会のホライズン賞を受賞

龔 劍萍（グン チェンピン）教授（先端生命科学研究院、WPI-ICReDD（化学反応創成研究拠点））が所属する米国国立科学財団分子最適化ネットワークセンター（NSF Center for Molecularly Optimized Networks、MONET）のチームが、英国王立化学会（Royal Society of Chemistry）のホライズン賞（Horizon Prize）を受賞しました。

英国王立化学会（RSC）の賞は、世界で最も歴史と権威のある賞の一つであり、化学分野の発展に貢献した個

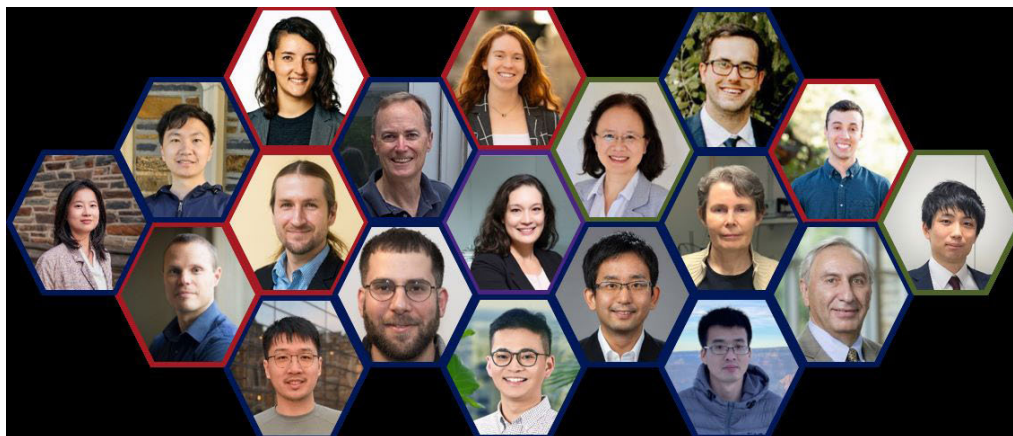
人、チーム、組織の功績を称えています。MONETチームは、埋め込まれたメカノケミカル反応が架橋ポリマーネットワークの力学的限界に与える影響と可能性を実証したことで受賞しました。

同チームにはマイケル・ルビンスタイン客員教授（次世代物質生命科学研究センターソフトマター国際連携ユニット、WPI-ICReDD（化学反応創成研究拠点））、ステイーヴン・クレイグ客員教授（次世代物質生命科学研究センターソフトマター国際連携ユニッ

ト）も所属しています。

龔教授は「大勢の優れた研究者との共同研究の結果、RSCから同賞を受賞できたことを喜ばしく感じています。今回の共同研究を通じて、私のこれまでのダブルネットワークゲルに関する専門知識では理解できない新しい現象があることに気づきました。本共同研究を踏まえて、ダブルネットワークゲルの更なる追及を目指します」とコメントしました。

（生命科学院・先端生命科学研究院）



龔教授（左から6列目上）、クレイグ客員教授（同4列目上）とルビンスタイン客員教授（同8列目下）

「国公立大学薬学部長（科長・学長）会議と国立大学附属病院薬剤部長会議との代表者懇談会」及び「令和6年度第1回国公立大学薬学部長（科長・学長）会議」を開催

6月6日（木）・7日（金）の両日、本学が当番大学となり、KKRホテル東京（東京都千代田区）を会場として、「国公立大学薬学部長（科長・学長）会議と国立大学附属病院薬剤部長会議との代表者懇談会（以下「代表者懇談会」）」及び「令和6年度第1回国公立大学薬学部長（科長・学長）会議（以下「薬学部長会議」）」を開催しました。

6日（木）の代表者懇談会では、千葉大学、大阪大学の薬学部長及び本学の本原章雄薬学部長、並びに東京大学、旭川医科大学、浜松医科大学、本学の附属病院薬剤部長の出席に加え、文部科学省高等教育局医学教育課から小林一隆薬学教育専門官、佐々木由香技術参与、金子早也香薬学教育係長に参加いただき、一つ目の懇談事項として「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」に基づく新たな「臨床における実務実習に関するガイドライン」準拠の実務実習導入への課題や実習実施体制などについて意見交換が行われました。

見交換が行われました。

引き続き二つ目の懇談事項として国公立大学薬学部と国立大学附属病院薬剤部との連携、附属病院への優秀な人材供給のための方策、各大学などの取組状況について意見交換され、会議終了後の情報交換会でも引き続き活発な意見が交わされました。

7日（金）の薬学部長会議では、全国20の薬学部及び関係大学院を有する国公立大学の薬学部長、科長、学長の出席に加え、小林薬学教育専門官、佐々木技術参与、金子係長、厚生労働省医薬局総務課から井上隆弘医薬品・医療機器情報等調査分析官、伊東香南総務課職員にご出席いただき、開催となりました。

会議では小林薬学教育専門官から薬学教育モデル・コア・カリキュラム、実務実習ガイドラインや令和6年度予算等について、井上分析官からは最近の医療行政を中心に情報提供がなされました。引き続き実施された質疑応答で

は、薬学部長会議に置かれた6年制教育検討委員会からの報告を受け、前日に引き続き「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」に基づく新たな「臨床における実務実習に関するガイドライン」準拠の実務実習の目指す方向性等について、各大学の実情を共有しつつ今後の課題について活発な議論が展開されました。その議論の内容は、例年夏に作成される薬学部長会議から文部科学省への要望書の内容へ反映させることとなりました。

終了後開催された情報交換会では、文部科学省高等教育局の俵 幸嗣医学教育課長、竹本浩伸課長補佐にも出席をいただき、今後の我が国の創薬力向上を加速するための新たな人材育成方策、大学が今後進めるべき教育研究等について、文部科学省及び各大学間で様々な意見が交換され、成功裏に幕を閉じました。

（薬学研究院・薬学部）



代表者懇談会の様子



国公立大学薬学部長（科長・学長）会議の様子



薬学部長会議で議事進行を行う木原薬学部長（左）



情報交換会での木原薬学部長の挨拶

産業創出講座「ハイケム北大R&Dラボ」を開設

本学とハイケム株式会社（以下ハイケム）は、石油資源に依存しない未来のペットボトルや繊維の早期の実用化と普及に向け、バイオマス（植物由来）の資源化技術の共同研究を行う産業創出講座「ハイケム北大R&Dラボ」を4月1日（月）に設立しました。

6月13日（木）には、本産業創出講座の設置部局である触媒科学研究所と記者会見を実施し、その模様は道内メディアをはじめ道外メディアや専門誌等にも取り上げられ、環境負荷を減らす取り組みへの関心の高さが伺えました。

ペットボトルや繊維の材料となるPET（ポリエチレンテレフタート）は、世界で約8,000万トン生産されています。PETは石油などの化石資源を原

料としており、CO₂排出量などの環境負荷が高くなるほか、石油の枯渇や石油価格の高騰などの課題を抱えています。これらの課題を解決するためにも、従来の石油資源を用いたPETに代わるボトルや繊維の早期の実用化が求められています。また多くの開発技術が一般的な普及には至っていないのが現状です。

触媒科学研究所では、バイオマス（植物由来）からプラスチック原料への触媒変換反応において、国内でも最先端の技術開発を行っています。今般、トウモロコシ由来の生分解性プラスチック・繊維の商品化や一酸化炭素由来のエチレングリコール（PETの原料）を実用化に結び付けた実績を持つハイケムと本学が共同開発を進めるこ

とで、未来のペットボトルや繊維の早期実用化を目指します。

今般のハイケムとの共同研究においては、ハイケムが調達するバイオマス原料の超高効率で超高選択的な糖化プロセスや樹脂原料への誘導化プロセスの開発を進めるとともに、PETの代替として注目を集める、新たなバイオマス（植物由来）ポリエステルの新規重合手法の開発に取り組みます。これらの技術確立により、社会的要請となるCO₂排出量や化石資源の使用削減に資する、グリーンな化学品及び樹脂の実用化に貢献することを目指しています。

（触媒科学研究所）



左から、ハイケム㈱ 青島敬之所長、高 裕一取締役、触媒科学研究所 清水研一所長、中島清隆教授



設立の挨拶をする清水所長

環境科学院で北大祭・研究施設公開「環境科学を体験しよう！」を開催

環境科学院では、6月9日（日）の北大祭にて研究施設公開「環境科学を体験しよう！」を開催し、延べ197名が来場し各ブースは大変賑わいました。未就学児や小中学生の親子連れ、高校生、その他一般の方が訪れ、幅広い年齢層の方に環境科学に関する研究をアピールする良い機会になりました。

今回の企画の内容は、「環境科学を体験しよう！」と題して、6件の環境サイエンスパフォーマンスと1件の展

示を行いました。鈴木カップリングを使った蛍光色素の合成を実演した「光るものを作ろう！」や、-196℃の液体窒素に風船や野菜などの身近なものを漬けてもらい、日常では体験できない極低温の世界を体感する「液体窒素でつくる極低温環境の世界」など、環境科学の実験を体験するブースが人気でした。

来場者にアンケート調査を実施したところ「すごく大人も子どもも楽しめ

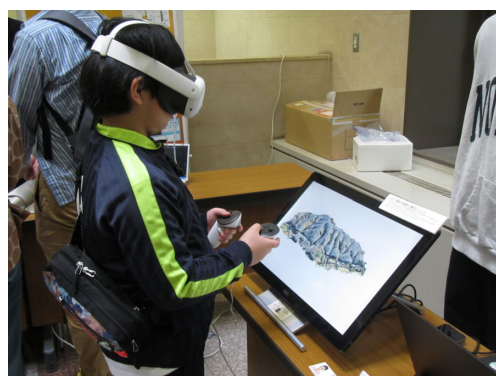
ました」「担当してくれた学生さんの説明もわかりやすく興味深い内容でした」「実験はどれもわかりやすいものでよかった」などの高い評価をいただきました。

今後とも、アンケートの結果を踏まえ、より多くの方々に楽しんでもらえるよう工夫してまいります。

（環境科学院）



会場の様子



立体模型のVR体験

北管理部（名寄市）でキャンパス・クリーン・デー開催

北方生物圏フィールド科学センター
森林圏北管理部（名寄市）で、5月15
日（水）に、札幌キャンパスと同日開
催にてキャンパス・クリーン・デーを
行いました。

北管理部の敷地は周囲を車の通行量
が多い道路に囲まれていることもあ

り、風に流されてきたビニールごみや
不法投棄された大型ごみが散見される
ところではあります。

今回は天候にも恵まれ、6名の参加
者により敷地内を歩きごみ拾いを行
いました。ごみ拾いの結果、ごみ袋6袋が
一杯になるほどのごみが集まり、キャン

パスの美化につながりました。

北管理部は敷地内に豊かな自然もあることから、今後もエコでクリーンなキャンパスを目指してまいります。

（北方生物圏フィールド科学センター）



ごみ拾いの様子



集められたごみ

北図書館で「出張学習サポート」を開催

附属図書館（北図書館）は高等教育推進機構ラーニングサポート室と連携して、5月23日（木）、27日（月）、28日（火）の3日間にわたり、北図書館西棟2階セミナールームで「出張学習サポート」を実施しました。

「学習サポート」とは、ラーニングサポート室が実施している大学院生チューターによる学習支援サービスです。普段は高等教育推進機構 E210室で質問・相談を受け付けていますが、

より多くの学生を支援するため、学生の利用が増えるテスト時期の北図書館で試験的に実施することとなりました。今回は主に数学、物理、化学を対象科目とし、合計11名の学生から相談を受け付けました。実施後のアンケートでは「テストの時期にこうして図書館に教えに来てくれるのは助かる」「（今後も）試験期間にやってほしい」などの意見が寄せられました。

併せて、サポート会場において5月23

日（木）から6月13日（木）までの期間、ラーニングサポート室や大学院生チューターによる推薦図書43冊を展示しました。出張サポート期間終了後は場所を北図書館2階カウンター前に移し、多くの展示図書が貸し出され、手に取られる様子も多く見られました。

（附属図書館、高等教育推進機構）

ラーニングサポート室×北図書館 出張学習サポート

「なんとなくわからない」「高校の時も苦手科目だった…」
そんな疑問や不明点を中間試験前にすっきり解消しましょう！
大学院生チューターがあなたの悩みを一緒に解決してくれます◎



★開催日時

- 5/23(木)12-16時
- 5/27(月)14-18時
- 5/28(火)16-18時

★場所 北図書館 西棟2F
セミナールーム

※予約不要です。直接お越しください。

出張！ 学習サポート時間割

日\時	12	13	14	15	16	17	18
5/23 (木)	化学・物理						
5/27 (月)			数学・物理				
5/28 (火)			数学・化学				

※チューターは各科目1名ずつ在席しています。
授業内容や教科書でわからないこと、レポートの書き方、試験の考え方、などは……
お気軽にご相談ください！



★お問い合わせ
ラーニングサポート室：iso_office@high.hokudai.ac.jp
附属図書館 学習支援企画担当：nref@lib.hokudai.ac.jp

ラーニングサポート室



附属図書館



サポート開催告知ポスター



サポート風景



展示風景

■お知らせ

令和5年度北海道大学外国人留学生後援会の決算

「北海道大学外国人留学生後援会」は平成15年4月に発足し、21年が経過しました。

この間、多くの方々に本後援会にご加入いただき、ご協力、ご支援をいただきましたこと、本誌面をお借りしてお礼申し上げますとともに、令和5年度決算を報告します。

本後援会は、会員の皆様からの拠出金をもとに、留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証に係る支援、留学生の入院に伴う連帯保証に係る支援、留学生の疾病等に対する経済的支援、留学生の不測の事故等に対する経済的支援、留学生を支援する団体に対する経済的支援を主な事業として活動しています。

今後とも、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(学務部学生支援課)

令和5年度 北海道大学外国人留学生後援会 決算報告書

自) 令和5年4月1日

至) 令和6年3月31日

1. 収入の部

(単位 円)

事 項	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度からの繰越	54,078,115	54,078,115	
会費	1,597,200	1,426,200	6月期徴収額 717,000 12月期徴収額 709,200
立替払返戻金	0	0	
一時金貸付金返戻金	0	0	
収 入 合 計	55,675,315	55,504,315	

2. 支出の部

(単位 円)

事 項	予 算 額	決 算 額	備 考
留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証に係る支援	1,000,000	0	弁護士相談 0 退去時精算 0
留学生の入院に伴う連帯保証に係る支援	500,000	0	
留学生の疾病等に対する経済的支援	500,000	0	
留学生の不測の事故等に対する経済的支援	7,000,000	0	一時貸付金 0
留学生を支援する団体に対する経済的支援	1,000,000	245,660	特定非営利活動法人 SEMIさっぽろ
その他	0	0	
予備費	45,675,315	0	
支 出 合 計	55,675,315	245,660	

3. 差引額

(単位 円)

翌年度に繰越	—	55,258,655	
--------	---	------------	--

博士学位記授与

6月28日（金）に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は40人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は4人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（法学）	すがさわ のり お 菅澤 紀生	アメリカ・オレゴン州土地利用法を参考とした持続可能な土地利用法制の検討－公的ニューサ ンスを鍵として－ 主査：教授 岸本 太樹
博士（環境科学）	アナック ス ア ブ NITHIMETHACHOKE スタンレイ Stanley	Multi-sensor remote sensing techniques for sustainable management of tropical forest and plantations in Northern Borneo （ボルネオ島北部の熱帯林とプランテーションの持続可能な管理のためのマルチセンサーリ モートセンシング技術） 主査：准教授 Ram Avtar
	ニ チ メ サ チ ヨ ッ ク NITHIMETHACHOKE タナサップ Tanasap	Studies on alkane degradation and its molecular mechanisms of <i>Geobacillus kaustophilus</i> HTA426 isolated from the Mariana Trench （マリアナ海溝から単離された <i>Geobacillus kaustophilus</i> HTA426のアルカン分解とその分子機 構に関する研究） 主査：教授 森川 正章
	ショウ ウ 庄 宇	Enhancement of the activity and durability of platinum alloy nanowire electrocatalysts for oxygen reduction and evolution reactions （白金合金ナノワイヤー触媒における酸素還元および酸素発生反応に対する活性と耐久性の向上） 主査：教授 八木 一三
博士（理学）	あしかが りょうすけ 足利 涼介	Representations of the Hopf algebroid A_σ and construction of dynamical reflection maps （Hopf algebroid A_σ の表現と、ダイナミカル・リフレクション写像の構成） 主査：准教授 澁川 陽一
	チェン シュリ 陳 樹立	Fluorescence diffuse optical tomography using time-domain peak time asymptotic analysis （時間領域ピーク時間の漸近解析による蛍光光拡散トモグラフィー） 主査：教授 久保 英夫
	ガン バ ッ ト GANBAT バイガリマー Baigalimaa	Upper Mantle Structure Beneath Mongolia with Surface Wave Tomography （表面波トモグラフィーによるモンゴル地域の上部マントル構造） 主査：教授 吉澤 和範
博士（農学）	チョウ カ 張 霞	Studies on the molecular mechanism involved in the second growth of potatoes using microtubers （マイクロチューバーを用いたジャガイモの二次生長に関わる分子機構の研究） 主査：特任教授 藤野 介延
	おかやす じゅり や 岡安 樹璃也	Systematics, diversity, and evolution of the East Asian velvet ants (Insecta: Hymenoptera: Mutillidae & Myrmosidae) （東アジア産アリバチの体系学・多様性・進化） 主査：准教授 吉澤 和徳
博士（ソフトマター科学）	ウェイ グーミイ 魏 谷米	Study on Force-Induced Polymerization and Growth in Double-Network Hydrogels with Vascular-Like Monomer Supply （血管様モノマー供給を有するダブルネットワークゲルにおける力誘発重合と成長に関する研究） 主査：教授 龔 劍萍
博士（教育学）	いとう じゅんしん 伊東 順真	下中弥三郎の生命主義教育論－デモクラシーとファシズムの〈間〉－ 主査：教授 白水 浩信

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（国際広報メディア）	ふじた まもる 藤田 守	日中両語の音節長の特徴と効率的な日本語発話の基盤形成—中国語母語話者による適切なCV音節長とその定着— 主査：特任教授 河合 靖
博士（学術）	サヴィヌィフ アンナ Savinykh Anna	継承語教育におけるCLILアプローチの可能性—日本在住ロシア語話者の場合— 主査：教授 パイチャゼ スヴェトラナ
博士（観光学）	ヴォフク ヴィクトリア Vovk Viktoriia	シベリア文学観光の研究—地域アイデンティティ・記憶・身体化に着目して— 主査：教授 西川 克之
博士（看護学）	きくち まみ 菊地 真海	高齢者における地域を基盤とした人々とのつながり：概念の明確化と測定尺度の開発 主査：教授 結城 美智子
博士（工学）	トウ ガイエツ DONG Kaiyue	XAFS studies on the well-defined fuel cell model catalysts （燃料電池モデル触媒の XAFS 研究） 主査：教授 加美山 隆
	ケバ ルクエタ Eric Keba Lukueta エリック	Bearing capacity of a shallow foundation on several types of ground with cavity under dry and unsaturated conditions based on Rigid Plastic Finite Element Method （剛塑性有限要素解析に基づいた、様々な地盤および水理条件下における空洞が発達した地盤上の直接基礎の支持力評価） 主査：准教授 磯部 公一
	ドウク ニン Daoju REN	Effect of moisture and wheel loads on resilient modulus and permanent strain of road subgrade in cold regions （寒冷地における水分及び輪荷重が道路路床のレジリエントモジュラス及び永久ひずみに及ぼす影響） 主査：教授 石川 達也
	ヨウ カン 楊 涵	A Case Study on Environmental Design Methods toward the Lifecycle Carbon Reduction of Residential Buildings in Severe Cold Regions in China （中国における寒冷地住宅の脱炭素化に向けた環境設計手法に関する事例研究） 主査：准教授 菊田 弘輝
	コン ヤクン Kong Yukun	Optimization of sustainable mix design for alkali-activated materials using machine learning methods （機械学習を用いたアルカリ活性材料のサステナブル材料設計） 主査：准教授 胡桃澤 清文
	コウ テンラク 高 添楽	Monomer Sequence Controllable Ring-opening Polymerization for Precise Synthesis of Polyester-based Copolymers （ポリエステル系コポリマーの精密合成を指向した配列制御型開環重合に関する研究） 主査：教授 松本 謙一郎
博士（理学）	ジャン ビンビン 張 斌斌	Synthesis of Highly Luminescent Cesium Tin Halide Perovskite Nanocrystals （高発光効率セシウムスズハライドペロブスカイトナノ粒子の合成） 主査：教授 松井 雅樹
	ノウローズ セジュティ Nowroz Senjuti	Study of the Effect of Tubulin C-terminal Tail on Mechanical Properties of Microtubule and Interaction with its Associated Motor Protein （微小管の機械的特性および関連モータータンパク質との相互作用に対するチューブリンC末端尾部の効果研究） 主査：教授 石森 浩一郎
博士（経営学）	こいぐち しょうご 鯉口 庄吾	わが国におけるホスピタリティ産業の発展可能性に関する実証研究-投資家の期待と自治体における財源整備の視点から- 主査：教授 高木 真吾
博士（経済学）	リ コウキ 李 宏暉	Essays on Household Finance and Happiness in China （中国における家計金融と幸福に関する研究） 主査：教授 齋藤 久光
博士（医学）	あおやぎ ひろゆき 青柳 裕之	大動脈弁狭窄症患者における非侵襲的な左室充满圧評価に関する研究 主査：教授 若狭 哲

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（医学）	あきやま ひさし 秋山 久	精神疾患における日本の臨床現場で実施可能な社会認知機能検査の検討 主査：教授 藤村 幹
	かづ い しょう 数井 翔	心臓サルコイドーシスにおける免疫抑制療法の効果予測および判定指標を探索する研究 主査：教授 若狭 哲
	ジュ バオホイ 朱 宝慧	Mechanisms of NLRC5 nuclear import and retention for enhanced MHC class I transactivation (NLRC5の核内輸送および保持によるMHCクラスI転写活性の増強メカニズム) 主査：教授 福原 崇介
	す の けんいちろう 須野 賢一郎	ラット心臓虚血再灌流障害モデルにおけるトレハロース・プレコンディショニングの心機能および内皮機能に対する保護効果の検討 主査：教授 安斉 俊久
	なかがわ じゅんいち 中川 純一	頭頸部悪性腫瘍の局所浸潤に関する画像診断への深層学習の応用の検討 主査：教授 青山 英史
	なかく ぼ き ちこ 中久保 佐千子	α 2/3サブユニット選択的GABA _A 受容体陽性アロステリック調整因子KRM-II-81のDravet症候群モデルマウスにおける治療効果の研究 主査：教授 神谷 温之
博士（医理工学）	ただ てつろう 多田 哲朗	[⁶⁴ Cu]Cu ⁺ 錯体を母体としたレドックスイメージング薬剤の開発に関する基礎的検討 主査：教授 久下 裕司
博士（感染症学）	トイ ティン TOYTING ジラ ッチャヤ Jirachaya	Study on the drug resistance in <i>Salmonella</i> and counter measure for it (サルモネラ菌の薬剤耐性とその対策に関する研究) 主査：教授 中島 千絵
博士（文学）	とよおか まさのぶ 豊岡 正庸	An Investigation Into Addition of Classical Negation to First-Order and Generalized Intuitionistic Logic (一階および一般化された直観主義論理に対する古典的否定の追加に関する探究) 主査：教授 佐野 勝彦
	ウ ゲ ッ ト ニ HUGUET カ ニ ヤ メ ロ ・ CANAMERO エンリック Enric	Organ Transplantation Metaphors A Comparative Corpus-Based Study of Life Depictions in Newspapers (臓器移植のメタファー -コーパスに基づいた、新聞における命の表現に関する比較研究-) 主査：教授 宮嶋 俊一
	オウヨウ ジョイチ 欧陽 如一	身体・動作・空間－中華圏アクション映画に関する研究 主査：教授 応 雄
博士（情報科学）	たていり かづ ま 館入 数磨	Computing Geodesics on Polyhedral Surfaces (多面体上の測地線の計算) 主査：教授 有村 博紀
	カツ コウハ 葛 皓波	測定装置に依存しない量子鍵配送における時間同期に関する研究 主査：准教授 岡本 淳
	ラ ト ナ ー ヤ カ RATNAYAKE ム デ ヤ ン セ ー ラ ー ゲ ー MUDIYANSELAGE サン ゴ ー タ ウ ダ ー ニ ー Sangeetha Udani ラ ト ナ ー ヤ カ Ratnayake	Enhancing Precision in Antibody-Antigen Complex Structure Prediction Through Parametric Optimization of RosettaAb Docking Scoring Function (RosettaAb Docking スコアリング関数のパラメータ最適化を通じた抗体-抗原複合体構造予測の精度向上) 主査：准教授 長田 直樹

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（法学）	こばやし いちろう 小林 一郎	日本的契約慣行の研究 主査：教授 曾野 裕夫
博士（教育学）	ふくま まき 福間 麻紀	救護施設利用者の入所経緯にみる生活困難の諸相 主査：准教授 佐々木 宏
博士（国際広報メディア）	ほんま けいいち 本間 圭一	フランスの極右政治勢力とメディアの相互作用 メディア公共圏の歴史の変遷からの考察 主査：教授 城山 英已
博士（保健科学）	おおはし かずき 大橋 和貴	急性期脳梗塞医療体制の最適配置と地理的アクセス性に関する研究 主査：教授 田高 悦子

■表敬訪問

海外

年月日	来 訪 者	来 訪 目 的
6.6.3	駐日オーストラリア大使館 Justin Hayhurst 特命全権大使	今後の交流に関する懇談及び講演会
6.6.25	国立陽明交通大学（台湾） Chi-Hung Lin 学長	今後の交流に関する懇談
6.6.26	ザンビア農業研究所 Rabson Mulenga プロジェクトコーディネーター	今後の交流に関する懇談



Justin Hayhurst 駐日オーストラリア大使（左から4人目）



Chi-Hung Lin 国立陽明交通大学学長（中央左）



Rabson Mulenga ザンビア農業研究所
プロジェクトコーディネーター（右から4人目）

（国際部国際連携課）

■人事

令和6年6月17日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【経営協議会委員】 （期間：令和9年3月31日まで）	三 橋 剛	北海道副知事

令和6年7月1日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【教授】 大学院地球環境科学研究院教授 大学院医学研究院教授 産学・地域協働推進機構教授	根 岸 淳二郎 和 田 剛 志 井 内 健 介	大学院地球環境科学研究院准教授 大学院医学研究院助教 徳島大学准教授

新任教授紹介

令和6年7月1日付



地球環境科学研究院教授に

ね ぎ し じ め ん じ ろ う
根岸 淳二郎 氏

統合環境科学部門
自然環境保全分野

生年月日

昭和48年7月21日

最終学歴

シンガポール国立大学文芸社会科学部博士課程修了（平成18年11月）
Ph.D. (Geography) （シンガポール国立大学）

専門分野

河川生態学、水文地形学



医学研究院教授に

わ だ た け し
和田 剛志 氏

侵襲制御医学分野

生年月日

昭和54年11月12日

最終学歴

北海道大学大学院医学研究科 博士課程修了（平成26年9月）
博士（医学）（北海道大学）

専門分野

救急医学



産学・地域協働推進機構教授に

い な い け ん す け
井内 健介 氏

産学連携推進本部 戦略企画部門

生年月日

昭和56年9月4日

最終学歴

徳島大学大学院先端技術科学教育部システム創成工学専攻 修了（平成21年3月）
博士（工学）（徳島大学）

専門分野

安全保障輸出管理、産学官連携活動

令和5年度卒業・修了者の就職等状況一覧

1. 就職等状況

学 部

令和6年5月1日現在

	文学部		教育学部		法学部		経済学部		理学部		医学部		歯学部		薬学部				工学部		農学部		獣医学部		水産学部		合 計	
	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	
(A) 卒業者数	187 (89)	66 (29)	208 (69)	191 (43)	289 (69)	114 (22)	178 (127)	51 (21)	50 (18)	30 (15)	650 (85)	211 (70)	40 (27)	191 (54)	2,456 (738)													
(B) 就職希望者数	145 (70)	47 (19)	154 (49)	156 (36)	38 (8)	0 (0)	97 (76)	1 (0)	5 (1)	25 (14)	90 (14)	40 (17)	32 (25)	33 (12)	863 (341)													
(C) 就職者数	139 (68)	39 (15)	140 (46)	152 (35)	35 (8)	0 (0)	84 (69)	1 (0)	5 (1)	25 (14)	85 (13)	34 (15)	32 (25)	30 (10)	801 (319)													
(内数) 道内就職者	41 (20)	12 (7)	37 (18)	34 (8)	11 (1)	0 (0)	58 (48)	0 (0)	1 (0)	11 (6)	16 (3)	11 (5)	8 (6)	9 (2)	249 (124)													
有 職 者	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)													
(D) 就職率(%)	95.9 (97.1)	83.0 (78.9)	90.9 (93.9)	97.4 (97.2)	92.1 (100.0)	—	86.6 (90.8)	100.0	—	100.0 (100.0)	94.4 (92.9)	85.0 (88.2)	100.0 (100.0)	90.9 (83.3)	92.8 (93.5)													
昨年度の就職率(%)	89.1 (86.4)	92.1 (93.8)	91.9 (93.8)	96.5 (100.0)	81.0 (92.9)	100.0 (100.0)	93.4 (94.3)	—	—	100.0 (100.0)	91.5 (93.8)	88.2 (100.0)	100.0 (100.0)	90.2 (100.0)	92.0 (94.4)													
(E) 進学者数	38 (19)	16 (9)	33 (13)	19 (4)	243 (60)	1 (0)	67 (41)	0 (0)	45 (17)	5 (1)	544 (67)	157 (47)	7 (2)	150 (41)	1,325 (321)													
(内数) 大学院	38 (19)	16 (9)	33 (13)	19 (4)	243 (60)	1 (0)	54 (28)	0 (0)	45 (17)	5 (1)	544 (67)	156 (47)	7 (2)	150 (41)	1,311 (308)													
[本学進学者数]	31 [(13)]	13 [(7)]	22 [(10)]	14 [(4)]	215 [(53)]	1 [(0)]	51 [(25)]	0 [(0)]	44 [(17)]	3 [(0)]	527 [(65)]	141 [(42)]	5 [(2)]	133 [(35)]	1,200 [(273)]													
大 学	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (13)													
[本学進学者数]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	0 [(0)]	1 [(0)]													
(F) その他	10 (2)	11 (5)	35 (10)	20 (4)	11 (1)	113 (22)	27 (17)	50 (21)	0 (0)	0 (0)	21 (5)	20 (8)	1 (0)	11 (3)	330 (98)													

※A=C+E+F・D=C÷B×100

※医学部医学科は卒業後2年間、歯学部は卒業後1年間の臨床研修期間がある。

修士課程

	法学 研究科 人数(名) (うち女子)	水産 科学院 人数(名) (うち女子)	環境 科学院 人数(名) (うち女子)	理学院 人数(名) (うち女子)	農学院 人数(名) (うち女子)	生命 科学院 人数(名) (うち女子)	教育学院 人数(名) (うち女子)	国際広報 メディア・ 観光学院 人数(名) (うち女子)	保健 科学院 人数(名) (うち女子)	工学院 人数(名) (うち女子)	総合 化学学院 人数(名) (うち女子)	経済学院 人数(名) (うち女子)	医学院 人数(名) (うち女子)	医学院 (公衆衛生学 コース1年) 人数(名) (うち女子)	医理工 学院 人数(名) (うち女子)	国際食 資源学院 人数(名) (うち女子)	文学院 人数(名) (うち女子)	情報科学院 人数(名) (うち女子)	合 計 人数(名) (うち女子)
(A) 修了者数	25 (13)	93 (28)	146 (43)	133 (17)	164 (73)	123 (42)	46 (30)	60 (41)	42 (25)	356 (45)	136 (35)	32 (14)	25 (7)	4 (0)	14 (3)	17 (9)	98 (49)	189 (15)	1,703 (489)
(B) 就職希望者数	18 (11)	81 (23)	105 (30)	97 (14)	140 (63)	80 (32)	33 (24)	41 (28)	29 (17)	311 (35)	109 (28)	24 (11)	19 (6)	0 (0)	9 (1)	13 (7)	57 (30)	151 (10)	1,317 (370)
(C) 就職者数	13 (9)	80 (23)	94 (27)	94 (13)	135 (60)	79 (32)	27 (19)	34 (23)	24 (13)	302 (31)	105 (26)	20 (8)	18 (6)	0 (0)	9 (1)	10 (4)	51 (25)	151 (10)	1,246 (330)
(内数：道内就職者)	4 (4)	9 (2)	16 (6)	18 (1)	16 (6)	8 (3)	13 (9)	7 (5)	15 (10)	23 (1)	6 (2)	3 (1)	8 (1)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	21 (12)	13 (0)	183 (63)
有 職 者	1 (1)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	7 (7)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	26 (12)
(D) 就職率(%)	72.2 (81.8)	98.8 (100.0)	89.5 (90.0)	96.9 (92.9)	96.4 (95.2)	98.8 (100.0)	81.8 (79.2)	82.9 (82.1)	82.8 (76.5)	97.1 (88.6)	96.3 (92.9)	83.3 (72.7)	94.7 (100.0)	—	100.0 (100.0)	76.9 (57.1)	89.5 (83.3)	100.0 (100.0)	94.6 (89.2)
昨年の就職率(%)	63.6 (42.9)	99.0 (100.0)	98.1 (96.9)	98.7 (100.0)	97.1 (95.9)	95.0 (93.9)	63.6 (50.0)	69.6 (58.8)	94.6 (94.7)	99.4 (97.3)	95.4 (96.4)	87.5 (100.0)	100.0 (100.0)	—	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	84.8 (71.4)	98.1 (100.0)	96.0 (91.1)
(E) 進 学 者 数	6 (1)	11 (4)	32 (11)	29 (2)	19 (8)	38 (8)	10 (5)	8 (4)	5 (4)	39 (6)	25 (5)	3 (1)	5 (0)	3 (0)	5 (2)	2 (0)	32 (13)	37 (5)	309 (79)
(内数：大 学 院)	6 (1)	11 (4)	32 (11)	29 (2)	19 (8)	38 (8)	10 (5)	8 (4)	5 (4)	39 (6)	25 (5)	3 (1)	5 (0)	3 (0)	5 (2)	2 (0)	32 (13)	36 (5)	308 (79)
(本学進学者数)	6 (1)	11 (4)	29 (11)	26 (11)	19 (8)	36 (8)	9 (5)	7 (4)	5 (4)	39 (6)	24 (5)	3 (1)	3 (0)	3 (0)	4 (1)	2 (0)	30 (13)	35 (5)	291 (77)
大 学 院	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
(本学進学者数)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
(F) そ の 他	6 (3)	2 (1)	20 (5)	10 (2)	10 (5)	6 (2)	9 (6)	18 (14)	13 (8)	15 (8)	6 (4)	9 (5)	2 (1)	1 (0)	0 (0)	5 (5)	15 (11)	1 (0)	148 (80)

※A=C+E+F・D=C÷B×100

専門職大学院

	法科大学院 (法学研究科)	会計専門職大学院 (経済学院)	公共政策大学院 (公共政策学部)	合 計
	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)
(A)修了者数	38 (7)	21 (4)	26 (8)	85 (19)
(B)就職希望者数	1 (0)	16 (4)	22 (7)	39 (11)
(C)就職者数	1 (0)	16 (4)	20 (7)	37 (11)
(内数)道内就職者	0 (0)	3 (1)	5 (0)	8 (1)
有職者	0 (0)	1 (0)	6 (2)	7 (2)
(D)就職率(%)	100.0 -	100.0 (100.0)	90.9 (100.0)	94.9 (100.0)
昨年度の就職率(%)	- -	91.7 (100.0)	94.3 (87.5)	93.6 (88.9)
(E)進学者数	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)
大学院	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)
[本学進学者数]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]
大 学	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
[本学進学者数]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]
(F)その他の	37 (7)	5 (0)	4 (1)	46 (8)

※A=C+E+F・D=C÷B×100

※法科大学院(F)その他には、修了後に実施される司法試験の受験準備者を含む。

博士課程

	法学 研究科	水産 科学院	環境 科学院	理学院	農学院	生命科学学院	教育学院	国際広報 メディア・観光学院	保健 科学院	工学院	総合 化学院	経済学院	医学院 ・医学 研究科	歯学院 ・歯学 研究科	獣医学院	医理工 学院	国際 感染症 学院	国際 食資源 学院	文学 院 ・文学 研究科	情報科学院 ・情報科学 研究科	合 計
	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)
(A)修了者数	9 (2)	13 (3)	34 (9)	33 (7)	37 (9)	37 (14)	9 (2)	19 (11)	18 (3)	46 (10)	42 (16)	9 (2)	66 (19)	42 (24)	7 (1)	8 (0)	4 (2)	4 (2)	38 (17)	43 (10)	518 (163)
うち単位修得退学者数	1 (0)	2 (1)	8 (2)	6 (2)	8 (5)	8 (4)	5 (1)	5 (3)	1 (0)	4 (0)	6 (2)	3 (1)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	16 (6)	3 (2)	83 (30)
(B)就職希望者数	8 (2)	10 (3)	32 (8)	26 (5)	31 (6)	37 (14)	8 (2)	12 (6)	11 (1)	42 (8)	42 (16)	5 (1)	64 (18)	38 (21)	6 (1)	7 (0)	4 (2)	2 (1)	29 (11)	40 (10)	454 (136)
(C)就職者数	6 (2)	9 (2)	30 (8)	24 (5)	31 (6)	36 (13)	7 (1)	10 (5)	10 (1)	39 (6)	38 (13)	5 (1)	63 (18)	35 (19)	6 (1)	7 (0)	4 (2)	2 (1)	27 (10)	38 (9)	427 (123)
(内数)道内就職者	6 (2)	2 (0)	12 (6)	7 (2)	12 (2)	10 (4)	3 (1)	5 (4)	9 (1)	18 (3)	6 (2)	3 (1)	58 (16)	29 (17)	2 (0)	3 (0)	4 (2)	0 (0)	13 (6)	6 (1)	208 (70)
有職者	2 (1)	3 (0)	6 (1)	3 (0)	7 (1)	2 (1)	2 (0)	6 (2)	8 (0)	9 (1)	4 (1)	3 (0)	34 (6)	0 (0)	0 (0)	6 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	4 (0)	101 (14)
(D)就職率(%)	75.0 (100)	90.0 (66.7)	93.8 (100)	92.3 (100)	100.0 (100)	97.3 (92.9)	87.5 (50)	83.3 (83.3)	90.9 (100)	92.9 (75.0)	90.5 (81.3)	100.0 (100)	98.4 (100)	92.1 (93.5)	100.0 (100)	100.0 (100)	100.0 (100)	100.0 (100)	93.1 (90.9)	95.0 (90)	94.1 (90.4)
昨年の就職率(%)	75.0 (66.7)	100.0 (100)	96.4 (90)	100.0 (100)	77.3 (57.1)	88.2 (66.7)	100.0 (100)	100.0 (100)	100.0 (100)	94.9 (100)	92.6 (81.8)	100.0 (100)	- 100.0 (100)	100.0 (100)	100.0 (100)	100.0 (100)	100.0 (100)	100.0 (100)	88.2 (77.8)	91.7 (50)	94.4 (87.3)
(E)進学者数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)
大学院	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)
(内数)[本学進学者数]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]
大 学	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
[本学進学者数]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]	[0] [(0)]
(F)その他の	3 (0)	4 (1)	4 (1)	9 (2)	6 (3)	1 (1)	2 (1)	9 (6)	8 (2)	7 (4)	4 (3)	4 (1)	3 (1)	7 (5)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	10 (7)	4 (1)	89 (40)

※A=C+E+F・D=C÷B×100

※単位修得退学者を便宜上「修了者」として含める。

令和6年5月1日現在

2. 地域別就職者数

部
学[illegible]

※()は女子で内数

修士課程

研究科・学院		法学研究科	水産科学学院	環境科学学院	理学院	農学院	生命科学学院	教育学院	国際広域研究・観光学院	保健科学学院	工学院	総合化学学院	経済学学院	医学院	医学学院 (公衆衛生コース)	医理工学院	国際食資源学院	文学院	情報科学学院	合計
企業 の所在地	研究科・学院	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数
		就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数
北海道	札幌市以外	3 (3)	6 (2)	15 (6)	14 (1)	4 (0)	2 (2)	3 (2)	13 (9)	6 (5)	14 (9)	17 (1)	3 (1)	3 (1)	7 (1)	2 (0)	1 (0)	11 (8)	12 (0)	145 (52)
	青森県	1 (1)	3 (0)	1 (0)	4 (0)				1 (0)	1 (0)	1 (1)	6 (0)	3 (1)		1 (0)		1 (0)	10 (4)	1 (0)	38 (11)
	岩手県											1 (1)								0 (0)
東北	宮城県		3 (0)		1 (1)	1 (1)						1 (0)				1 (0)				1 (1)
	宮城県																			7 (2)
	秋田県							1 (1)												1 (1)
	山形県																			0 (0)
関東	福島県						2 (0)													2 (0)
	茨城県		2 (1)	1 (0)	1 (0)	4 (3)	1 (0)	1 (1)			2 (0)	2 (0)							1 (0)	15 (5)
	栃木県										2 (0)	3 (1)								5 (1)
	群馬県								1 (0)		1 (0)	1 (1)								3 (1)
	埼玉県			4 (0)			1 (1)	2 (2)				2 (2)								9 (5)
	千葉県		2 (0)	4 (1)	2 (0)	3 (2)	1 (0)		1 (0)	1 (0)	3 (0)	5 (0)						1 (0)		23 (3)
中部	東京都	5 (4)	39 (12)	39 (9)	55 (7)	67 (21)	40 (18)	10 (6)	19 (12)	6 (2)	168 (19)	47 (9)	11 (6)	8 (4)		6 (1)	7 (4)	20 (9)	98 (9)	645 (152)
	神奈川県		4 (2)	4 (3)	9 (2)	10 (4)	7 (3)				24 (1)	10 (2)	1 (0)					1 (0)	20 (0)	90 (17)
	新潟県		1 (0)															1 (1)		2 (1)
	富山県		1 (0)		1 (0)						2 (1)			1 (0)						5 (1)
	石川県				1 (0)						2 (0)									3 (0)
	福井県																			0 (0)
近畿	山梨県						1 (0)				2 (0)	1 (0)								4 (0)
	長野県			1 (0)							1 (0)							2 (0)	2 (0)	6 (0)
	岐阜県										1 (1)									1 (1)
	静岡県		1 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (2)	5 (1)				1 (0)	2 (1)							2 (1)	16 (5)
	愛知県		3 (0)	1 (0)		7 (5)					18 (1)								3 (0)	32 (6)
	三重県			1 (0)			1 (1)	1 (0)			2 (0)	1 (1)							1 (0)	3 (1)
中国	滋賀県						3 (2)				2 (0)	7 (2)							2 (0)	6 (2)
	京都府		2 (1)								3 (2)									17 (7)
	大阪府	1 (0)	6 (2)	7 (3)	2 (1)	9 (6)	5 (4)	1 (1)			19 (3)	5 (2)		1 (1)			2 (0)		5 (0)	63 (23)
	兵庫県		4 (2)	4 (1)		4 (3)	4 (0)				10 (0)	2 (0)								28 (6)
	奈良県																			0 (0)
	和歌山県		1 (1)	1 (1)																2 (2)
四国	鳥取県																			0 (0)
	島根県																			0 (0)
	岡山県			1 (0)								2 (0)								0 (0)
	広島県										1 (0)	1 (0)							1 (0)	4 (0)
	山口県											2 (0)								2 (0)
	徳島県						1 (1)	2 (1)											1 (0)	3 (0)
九州	香川県	1 (0)																		3 (2)
	愛媛県	1 (0)			1 (0)													1 (1)		1 (0)
	高知県																			3 (1)
	福岡県				1 (1)						1 (0)									4 (1)
	佐賀県										1 (0)	1 (0)							1 (0)	1 (0)
	長崎県																			5 (1)
沖縄県	熊本県			3 (1)							2 (0)									5 (1)
	大分県																			0 (0)
	宮崎県						1 (0)													1 (0)
	鹿児島県									1 (1)										1 (1)
	沖縄県			1 (1)					1 (1)											2 (2)
	海外	3 (1)		5 (1)	1 (0)	2 (2)	2 (0)	1 (1)	4 (4)		11 (2)	1 (1)	5 (1)					2 (2)	1 (0)	37 (14)
就職先詳細不明									1 (1)		2 (0)	1 (1)	(0)					2 (0)		6 (2)
合計		13 (9)	80 (23)	94 (27)	94 (13)	135 (60)	79 (32)	27 (19)	34 (23)	24 (13)	302 (31)	105 (26)	20 (8)	18 (6)	0 (0)	9 (1)	10 (4)	51 (25)	151 (10)	1,246 (330)

※()は女子で内数

専門職大学院

研究科等		法科大学院 (法学研究科)	会計専門職大学院 (経済学院)		公共政策大学院 (公共政策学教育部)		合	計	
企業のある地		就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数			
北海道	札幌市		3	(1)		4	(0)	7	(1)
	札幌市以外					1	(0)	1	(0)
	青森県					1	(0)	1	(0)
東北	岩手県							0	(0)
	宮城県					1	(0)	1	(0)
	秋田県							0	(0)
	山形県							0	(0)
	福島県							0	(0)
関東	茨城県							0	(0)
	栃木県							0	(0)
	群馬県							0	(0)
	埼玉県		1	(0)				1	(0)
	千葉県							0	(0)
	東京都	1	(0)	8	(2)	10	(4)	19	(6)
北陸	神奈川県							0	(0)
	新潟県		1	(0)				1	(0)
	富山県		1	(0)				1	(0)
中部	石川県							0	(0)
	福井県							0	(0)
	山梨県							0	(0)
	長野県							0	(0)
	岐阜県							0	(0)
	静岡県							0	(0)
近畿	愛知県		1	(0)				1	(0)
	三重県							0	(0)
	滋賀県					1	(1)	1	(1)
	京都府							0	(0)
中国	大阪府		1	(1)		1	(1)	2	(2)
	兵庫県							0	(0)
	奈良県							0	(0)
	和歌山県							0	(0)
	鳥取県							0	(0)
九州	島根県							0	(0)
	岡山県							0	(0)
	広島県							0	(0)
	山口県							0	(0)
	徳島県							0	(0)
四国	香川県					1	(1)	1	(1)
	愛媛県							0	(0)
	高知県							0	(0)
	福岡県							0	(0)
	佐賀県							0	(0)
	長崎県							0	(0)
九州	熊本県							0	(0)
	大分県							0	(0)
	宮崎県							0	(0)
	鹿児島県							0	(0)
沖縄県								0	(0)
海外								0	(0)
合計		1	(0)	16	(4)	20	(7)	37	(11)

※()は女子で内数

博士課程

研究科・学院		法学研究科	水産科学院	環境科学院	理学院	農学院	生命科学学院	教育学院	国際健康科学大学院	保健科学院	工学院	総合化学学院	経済学院	医学院・歯学院・歯学研究科	獣医学院	医理工学院	国際感染症学院	国際食資源学院	文学研究科	情報科学・情報科学研究科	合計
企業の所在地		就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数
北海道	札幌市以外	6 (2)																	11 (6)	6 (1)	172 (63)
			1 (0)	9 (4)	7 (2)	10 (2)	10 (4)	2 (1)	4 (4)	8 (1)	17 (3)	6 (2)	3 (1)	37 (12)	27 (16)	3 (0)	4 (2)		2 (0)		36 (7)
東北	青森県																	1 (0)			2 (1)
	岩手県					1 (0)													1 (0)		2 (0)
	宮城県																				2 (0)
	秋田県																				0 (0)
	山形県			1 (1)																	1 (1)
関東	福島県										1 (0)	2 (1)									0 (0)
	茨城県				2 (0)	1 (0)	3 (0)												2 (0)	11 (1)	1 (0)
	栃木県			1 (0)																	0 (0)
	群馬県																			1 (1)	2 (0)
	千葉県											2 (0)									63 (11)
北陸	東京都	1 (1)	1 (1)	4 (0)	6 (0)	8 (1)	7 (2)	1 (0)	2 (0)		9 (2)	7 (2)	1 (0)	1 (1)	1 (0)	1 (0)		6 (2)	6 (0)	6 (0)	15 (0)
	神奈川県			1 (0)	1 (0)	1 (0)				1 (0)	2 (0)	3 (0)		1 (0)				1 (0)			4 (0)
	新潟県																				0 (0)
	富山県																				0 (0)
	石川県																				0 (0)
中部	福井県																				0 (0)
	山梨県											1 (0)			1 (0)				1 (0)	1 (0)	3 (0)
	長野県																				0 (0)
	岐阜県																				5 (1)
	静岡県	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (0)		1 (0)			1 (0)	1 (0)		1 (0)				1 (1)	2 (1)	6 (2)
近畿	愛知県																				3 (2)
	三重県																				1 (0)
	滋賀県					1 (0)															7 (1)
	京都府		1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (1)	(0)												1 (0)	1 (0)	12 (3)
	大阪府					1 (1)	4 (0)		1 (0)		1 (0)	5 (2)									3 (0)
中国	兵庫県																				0 (0)
	奈良県																				0 (0)
	和歌山県																				0 (0)
	鳥取県																				0 (0)
	島根県																				0 (0)
四国	岡山県																				2 (0)
	広島県				1 (0)		1 (1)	1 (0)											1 (0)		2 (1)
	山口県																				0 (0)
	徳島県																				1 (0)
	香川県				1 (0)																0 (0)
九州	愛媛県																				0 (0)
	高知県																				0 (0)
	福岡県													1 (1)							1 (1)
	佐賀県				1 (1)																0 (0)
	長崎県							2 (0)													2 (1)
沖縄県	熊本県																				2 (0)
	大分県																				0 (0)
	宮崎県																				0 (0)
	鹿児島県																				0 (0)
	鹿児島県		1 (1)																		1 (1)
海外			1 (0)	5 (0)	3 (1)	4 (1)	9 (5)		1 (1)		7 (1)	7 (5)		1 (0)	3 (2)	1 (0)		1 (1)	5 (2)	10 (5)	61 (25)
就職先詳細不明																					2 (0)
合計		6 (2)	9 (2)	30 (8)	24 (5)	31 (6)	36 (13)	7 (1)	10 (5)	10 (1)	39 (6)	38 (13)	5 (1)	63 (18)	35 (19)	7 (0)	4 (2)	2 (1)	27 (10)	38 (9)	427 (123)

※()は女子で内数

(学務部キャリア支援課)

編集メモ

● 令和6年度版のキャンパスガイドマップが完成しました。
本学のwebサイトからどなたでもダウンロードできるほか、インフォメーションセンター「エルムの森」などに紙媒体も配架しています。

初夏のキャンパス散策時に、ぜひご活用ください。
(掲載先) ホーム＞キャンパスマップ・アクセス＞北海道大学キャンパスガイドマップ
https://www.hokudai.ac.jp/introduction/pdf/campusmap_jp.pdf

裏表紙メモ

今月のキャンパス風景は、夕暮れ時の大野池です。
池の水面を覆うスイレンの葉の隙間を、アメンボが優雅に行き交います。
夏の暑熱とキャンパス内の賑わいも夕方になると少し落ち着き、どこか静けさを感じるひと時です。

キャンパス風景 52 大野池（北12条西8丁目）



北大時報 ⑦ No.844 令和6年7月発行

北海道大学社会共創部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-2092 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>